

ドカ雪猛威 農業施設 倒壊相次ぐ 牛、豚被害 ビニールハウス崩れる

2018年3月2日

十勝管内では農業被害も広がっている。雪の重みに耐えられず、帯広市や清水町、中札内村で牛舎などが倒壊。芽室で複数のビニールハウスが壊れたとの情報もある。2日午前の段階で除雪が行き届いていないところもあり、被害報告は今後増える恐れがある。各ＪＡや市町村などが連携し、実態把握を急いでいる。

清水町の酪農家では倒壊した牛舎の下敷きとなって牛1頭が死んだ。重傷を負った1頭を殺処分とした。広尾町内でも牛舎1棟が倒壊し、牛1頭が死んだ。

中札内村の農事組合法人十勝ホッグファーム（村元札内、渡邊広大組合長）によると、雪の重みで豚舎1棟が全壊、1棟が半壊した。肥育と繁殖合わせて450頭を飼育しており、押しつぶされて死んだ豚が複数いる模様。「十勝野ポーク」の名称で販売されており、渡邊組合長は「被害は大きいですが、出荷体制を見直し、銘柄豚には影響がでないようにしたい」と話していた。

同村によると、村内ではこの他に養豚農家1軒で豚舎1棟が一部損壊した。



大雪の影響で車両が雪にはまり、除雪を繰り返す住民(帯広市)

ＪＡひろおによると、停電で搾乳が遅れた農家があったが、自家発電機などで対応できている。生乳を運ぶ集乳作業も遅れが出ているが、「2日中には対応できそうで、廃棄処分になることはないだろう」と話す。

市内の牧場では、牧草を保管していた農舎が倒壊。対応に追われた。壊れた建材を撤去でき次第、牧草を別の建物に移すという。「牛舎は無事だったが大雪が続くと耐えきれないかもしれない」と牧場主の男性は顔を曇らせる。

畑作にも影響が出ている。芽室町内ではネギ栽培用の複数のビニールハウスが倒壊した。ＪＡ帯広かわにしでは「大きな被害はないが、一部の農家でハウスの支柱が折れた」。畑にも雪が堆積しており、春の農作業に間に合わせるため、融雪剤を多めにまくなどの対応が必要になりそうだ。

◆十勝に大雪を降らせた 低気圧のイメージ



つぶれた飼育舎 450頭下敷き 機材届かず助け出せず 中札内・被害の養豚農家

2018年3月3日

【中札内】十勝管内で1日、最も多い降雪量63センチを観測した村上札内。周辺ではブランド豚を生産する2つの畜産農家で豚舎の倒壊が相次いだ。2棟の豚舎が全半壊した農事組合法人「十勝ホッグファーム」（村元札内、渡邊広大組合長）では、約450頭の豚が下敷きになったままだ。まだ生きている豚がいる中、重機の到着が遅れ、助け出せないもどかしさを感じる生産者の姿があった。



雪の重さでつぶれた豚舎。子どもが腹の中にある約150頭の豚が埋もれた

3日朝、全壊した種豚舎を訪れた。かろうじて入り口は開いているものの、建物の側面に回ると屋根が中央から大きくつぶれていた。倒壊に気付いたのは2日朝。渡邊組合長は「軽い雪なら大丈夫だと思っていたが、夜中に急に重くなった。これだけ多い雪が一気に降ったことはなかった」と振り返る。

ここには腹に子どものいる約150頭の豚がいた。別の豚舎も半壊し、出荷用に肥育していた豚300頭が取り残されている。生産した豚肉の中には「十勝野ポーク」の名称で、管内のスーパーで販売しているものも。全滅なら売り上げへの影響は約5000万円前後を見込む。

さらに崩れる恐れもあり、中には入れないため、上から重機でがれきを